

LINKAGE 国際シンポジウム2026

サイエンスアゴラ in 沖縄 × 水と島じま LINKAGE International Symposium 2026

陸と海をつなぐ

～サンゴ島の持続可能な未来へ向けて～

Bridging Land and Sea

— Towards a Sustainable Future for Coral Islands —

2026 年

10月25日(日) 13:00～17:00
(開場 12:30)

那覇文化芸術劇場なはーと大スタジオ

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-26-27

入場料：無料

同時通訳有り（日本語・英語・インドネシア語）

事前参加登録フォーム 当日参加も可。
準備の都合上、事前登録にご協力ください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/D9bjZT3diw>

共催：琉球大学・総合地球環境学研究所・国立研究開発法人科学技術振興機構



沖縄県国頭村を流れる奥川の河口から海越しに望む与論島（写真：松本太郎）

2020 年 4 月、琉球大学と総合地球環境学研究所（地球研）は連携協定を締結し、共同研究プロジェクト「陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンス：サンゴ礁島嶼系での展開」を推進してきました。本プロジェクトは、琉球弧、東インドネシア、フィジーなどのサンゴ礁島嶼地域を対象に、陸と海のつながりを自然科学・人文学・社会科学の多角的なアプローチから総合的に探求するとともに、地域の方々と課題解決を模索する地域実践を重ねてきました。本シンポジウムは、国内外の政策立案者や実践者をお招きし、参加者の皆様とともに私たちが暮らすサンゴ島の水と暮らしの未来を考えたいと思います。

基調講演

谷口真人

総合地球環境学研究所・特任教授
地球人間システムの共創プログラム・プログラムディレクター

リスクと価値の地下水ネクサス

The Groundwater Nexus of Risk and Value

Sun-Kee HONG

国立木浦大学校（Mokpo National University、韓国）・教授
同大学海洋島嶼文化研究所・所長

レジリエントな島嶼の生物文化生態学

——隔たりから関わりへ：社会生態学的ネットワークとして島じまをとらえ直す

Biocultural Ecology of Resilient Islands: From Isolation to Relationality: Rethinking Islands as Socio-Ecological Networks

島じまからの報告

安元純 総合地球環境学研究所准教授、琉球大学農学部助教

Haliana インドネシア・南東スラウェシ州ワカトビ県知事

Awnesh Singh フィジー・The Centre for Sustainable Futures 副所長、The University of the South Pacific 准教授

鈴木規慈 離島希少種保全専門官、環境省石垣自然保護官事務所上席自然保護官

伊谷玄 竹富町千立公民館長

プログラムの詳細は、裏面をご覧ください。



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人
総合地球環境学研究所



国立研究開発法人
科学技術振興機構

開催趣旨

ABOUT THIS SYMPOSIUM

沖縄の島じまをはじめとするサンゴ礁島嶼では、人々の暮らしは地下水や湧水などの限られた水資源・自然資源に支えられてきました。そして人々は、こうした自然の恵みを大切に分かち合い、感謝する文化を育んできました。しかし近年、土地利用や社会経済の変化によるローカルな影響と、気候変動などのグローバルな影響が重なり、水資源の枯渇・汚染とサンゴ礁生態系の劣化が同時に進行しています。これらの問題を解決するためには、陸から海までを一体として捉えた流域ガバナンスを支える法制度やセクター間の連携、そして多様な知や経験の橋渡しが不可欠です。そのため、島じまでは近年、さまざまな取り組みが実践されています。

本シンポジウムでは、国内外の地域実践者を招聘し、水資源管理・沿岸保全において、さまざまな「はざま」をいかに乗り越え、行政だけでなく農業・畜産・漁業などの生産から流通・消費に至る多様な主体がいかに関与できるのか、地域実践の取り組みと課題を共有します。サンゴ礁の自然と人との関わりの持続可能性という課題に取り組むため、研究者や行政、生産者、市民、学校関係者、環境 NGO など、多世代・多様な専門性や専門知が集う市民対話・ダイアログの場を設けます。そして、各地の地域実践に学び、制度と知の関わりを紡ぎ直し、水循環を軸に異なるセクターと知を橋渡しする流域ガバナンスのあり方を探りたいと思います。知恵と経験を持ち寄る協働学習の場から、島の水と暮らしの未来を考える一日に参加してみませんか。

当日プログラム

PROGRAM

全体司会：高橋そよ 琉球大学人文社会学部准教授

12:30 開場

13:00-13:10 開会の挨拶：木暮一啓
琉球大学理事・副学長（国際連携担当）

第1部 島からサイエンスと社会をつなぐ

13:10-13:40 基調講演1：谷口真人
総合地球環境学研究所特任教授
地球人間システムの共創プログラム・プログラムディレクター13:45-14:15 基調講演2：Sun-Kee HONG
国立木浦大学校（Mokpo National University、韓国）教授
同大学海洋島嶼文化研究所所長

14:15-14:30 休憩

第2部 島じまからの報告

14:30-14:50 LINKAGEからの研究成果報告：安元純
総合地球環境学研究所准教授、琉球大学農学部助教14:50-15:10 インドネシアからの報告：Halina
南東スラウェシ州ワカトビ県知事15:10-15:30 フィジーからの報告：Awnesh Singh
The Centre for Sustainable Futures副所長15:30-15:50 沖縄・石西礁湖からの報告：鈴木規慈
環境省石垣自然保護官事務所上席自然保護官15:50-16:10 沖縄・西表島からの報告：伊谷玄
竹富町千立公民館長

16:10-16:20 休憩

第3部 クロストーク

16:20-16:55 クロストーク：ファシリテーター 久保慶明
関西学院大学総合政策学部教授16:55-17:00 閉会の挨拶：新城竜一
琉球大学理学部教授

谷口真人

総合地球環境学研究所・特任教授、地球人間システムの共創プログラム・プログラムディレクター。理学博士。専門は地下水学・水文学。国際測地学・地球物理学連合フェロー、日本地球惑星科学連合フェロー、文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞。現在、日本学術会議連携会員、Governing Council member of Future Earth。ステークホルダーとの共創による「水・エネルギー・食料の連関研究」や、「カーボンニュートラルに向けたSDGs研究」等に従事。



Sun-Kee HONG

国立木浦大学校（Mokpo National University、韓国）教授、同大学海洋島嶼文化研究所・所長。PhD（Environmental Planning）。専門は生態学・環境マネジメント。国際地理学連合（IGU）島嶼委員会執行委員。Korea Island Foundation 理事長。受賞歴に大統領表彰（2021年）、國務總理表彰（Prime Minister's Commendation、2010年）、環境部長官表彰（Minister of Environment's Commendation、2002年）他。主な著書に『Biocultural Ecology of Resilient Islands』（2026年9月刊行）、『Ecology of a Port City（港湾都市の生態学）』（2023年）他。島嶼研究、生態学、サステナビリティ研究、生物文化的ランドスケープ論等に従事。

LINKAGE 国際シンポジウム 2026

サイエンスアゴラ in 沖縄 × 水と島じま

「陸と海をつなぐ ～サンゴ島の持続可能な未来へ向けて～」サイドイベント

クロストーク サイエンス × 水辺の民話

2026年 10月10日(土) 13:00~15:00 (12:30 開場)

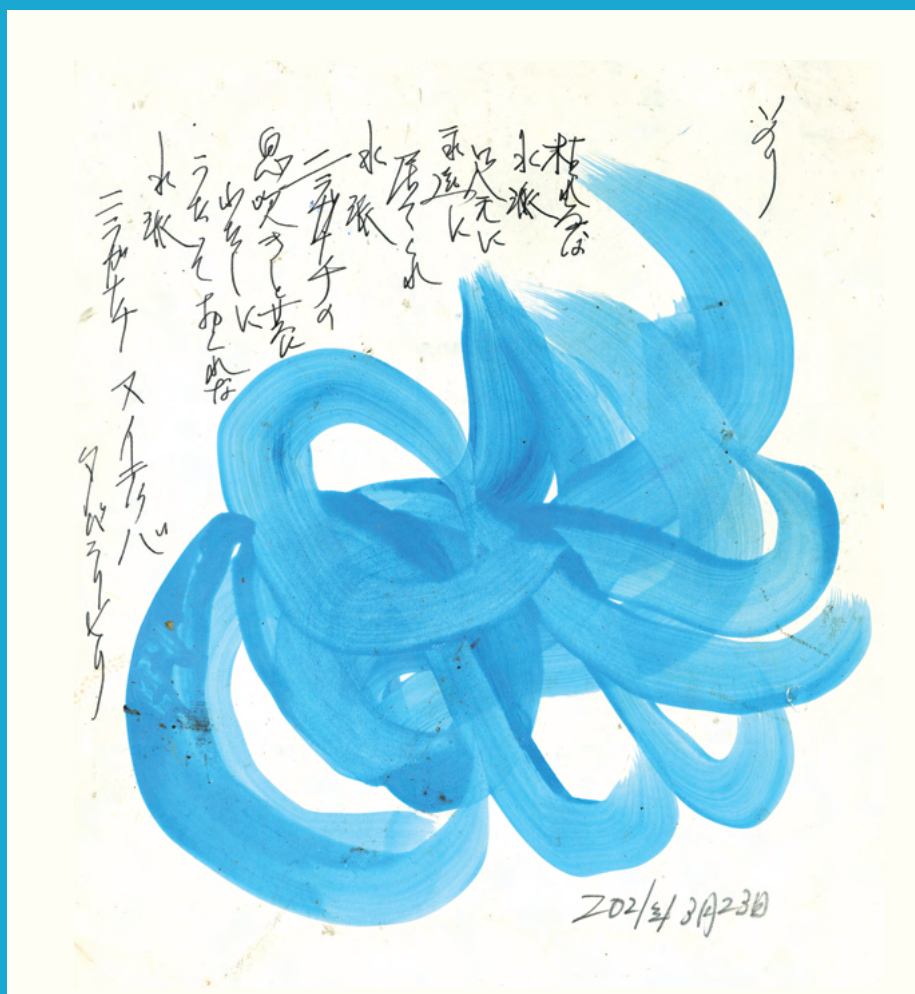
琉球大学附属図書館 本館 2 階 ラーニング・コモンズ

〒903-0214 沖縄県中頭郡西原字千原1番地

共催：沖縄伝承話資料センター、琉球大学、総合地球環境学研究所、国立研究開発法人科学技術振興機構

わからんこ えぬこ げんがてん

工房なんたむら 和歌嵐香 N子 原画展



原画展&クロストーク

水のめぐりと
島のくらし

—— 与那国島からの絵手紙

2026年
10月24日(土)
26日(月)
28日(水)

10:30~18:00

沖縄県立図書館 4 階
交流ルーム

〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1丁目20番1号

共催：琉球大学、総合地球環境学研究所
国立研究開発法人科学技術振興機構

いのり 2021年

入場無料

事前申し込み不要



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人
人間文化研究機構 総合地球環境学研究所



国立研究開発法人
科学技術振興機構

原画展&クロストーク

水のめぐりと島の暮らし — 与那国島からの絵手紙

工房なんたむら 和歌嵐香 N子原画展

台湾が見える与那国島に伝わる大地・海・天をつなぎ、すべてに感謝するくらしの知恵をアートで表現。和歌嵐香 N子の原画展を中心に、水とくらしをテーマの座談会を開催します。地球研(総合地球環境学研究所)LINKAGE(リンケージ)プロジェクトで5年間取り組んだ研究成果の発表をかねます。サンゴ礁の恵みに生かされてきた奄美沖縄やインドネシア等の島々で、陸と海をつなぎ水のめぐりと、くらしの中ではぐくまれてきた生物と文化の多様性をめぐって地域のみなさんと進めてきた研究です。はるかな昔から島のくらしを支えてきた、ゆたかな資源とそれをかしこく使う知恵のかずかすを、島にくらす私たちはどうすればそこなわずに未来に手わたせるでしょうか。気候や社会の大きな変動の中でも、島々が生きのびる道をいっしょに探検してみませんか。

クロストークプログラム CLOSTALK PROGRAM

ホスト：安溪貴子*・安溪遊地*

沖縄県立図書館4階 交流ルーム

01 「アートと島の宇宙観」 10.24 (土) 15:00 - 16:30

渡久地 健* (元琉球大学准教授)

02 「水のめぐりと生物文化」 10.24 (土) 17:00 - 18:00

当山 昌直* (沖縄両生爬虫類研究会会長)

03 「漂流民が結んだ島々」 10.26 (月) 15:00 - 16:30

波照間 永吉 (名桜大学特任教授)

04 「生物文化を若者に手渡す」 10.26 (月) 17:00 - 18:00

盛口 満* (沖縄大学学長)

05 「言い伝えは未来へのことづて」 10.28 (水) 15:00 - 16:30

高橋 そよ* (琉球大学准教授・LINKAGE 生存基盤ユニット長)

安里 恵美 (琉球大学大学院地域共創科院生・こえるまなび研究所)

* 地球研 LINKAGE プロジェクト共同研究員 (生存基盤ユニット)

作家プロフィール

和歌嵐香 N子 (わからんこ えぬこ 1954-2025)

与那国島で生まれ育ち、島のお年寄りから伝承を託された。ぼうだいな島の言葉と伝承の数々を4000枚の語彙カードや1000枚におよぶ絵等で記録し、36年間にわたって安溪夫妻に送り続けてきた。

クロストークホストプロフィール

安溪貴子 (あんけい たかこ)

生態学・民族植物学専攻。山口県立萩看護学校非常勤講師。理学博士。主な著作に、『森のひととの対話—熱帯アフリカ・ソングーラ人の暮らしの植物誌』(2009)『ソテツをみなおす』(2015)など。

安溪遊地 (あんけい ゆうじ)

人類学・地域学専攻。山口県立大学国際文化学部名誉教授。京大理博。主な編著に『西表島の農耕文化—海上の道の発見』(2007)『島と海と森の環境史』(2011)など。



命つなぎの女神 2021年

お問い合わせ

総合地球環境学研究所 LINKAGE プロジェクト | メール: rihn.linkage@chikyu.ac.jp